

京都第一赤十字病院で局所進行膵臓癌に対し胆道ドレナージを施行した歴のある
患者様・ご家族様の皆様へ

局所進行膵臓癌の胆道ドレナージにおける金属ステント留置の有効性と安全性に関する後ろ向き検討調査へのご協力のお願い

今回、京都第一赤十字病院は、局所進行膵臓癌の胆道ドレナージにおける金属ステント留置の有効性と安全性に関する後ろ向き検討を実施いたします。そのため、過去に京都第一赤十字病院で局所進行膵臓癌に対し胆道ドレナージを施行した患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

局所進行膵臓癌の根治が期待できる唯一の方法は手術加療です。手術にむけて術前治療として化学療法あるいは放射線化学療法を行うことがあります。また膵頭部癌の場合閉塞性黄疸をきたし胆道ドレナージを要することがあり、その有効なドレナージ方法として経乳頭的な金属ステント留置が期待されています。

本研究では当院における治療の効果を検証すること、また問題点があればそれを明らかにすることを目的としています。また改善すべき問題点があれば、今後の治療法に役立つことが期待されます。

研究の方法

対象となる方について

局所進行膵臓癌と診断され、2015年1月1日から2025年3月12日までに京都第一赤十字病院において胆道ドレナージを施行した患者様が対象となります。

研究期間:倫理審査委員会承認後から2026年3月31日

方法

本研究は、過去に当院において局所進行膵臓癌に対し胆道ドレナージを施行した患者様の診療記録から病歴、検査結果、治療経過、有害事象などを抽出し、後ろ向きに検討する観察研究です。下記のような項目を検討します。

- ① 患者基本情報:性別、年齢、併存疾患、内服歴、血液検査所見、画像所見、術前治療内容など。
- ② 有効性として、ステント開存率、手術移行率、術前治療の最良効果判定、病理学的奏効割

合、全生存期間など。

③ 安全性として、ステントに伴う有害事象、手術に伴う有害事象

研究に用いる試料・情報について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、2026 年 3 月 31 日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。研究に参加しない場合でも不利益が生じることはございません。

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記の本研究実施担当者までご連絡をお願いします。

本研究は、当院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

研究組織

本研究責任者

京都第一赤十字病院

第一消化器内科部長 佐藤秀樹

お問い合わせ先

京都第一赤十字病院

第一消化器内科医長 吉田寿一郎

電話: 075-561-1121 (代表)